H11 マトリクスモデルによる改善活動の診断

経営学部・経営学科・准教授・安田　正義
masayoshi_yasuda@aitech.ac.jp

キーワード　改善活動、収益、診断、評価指標

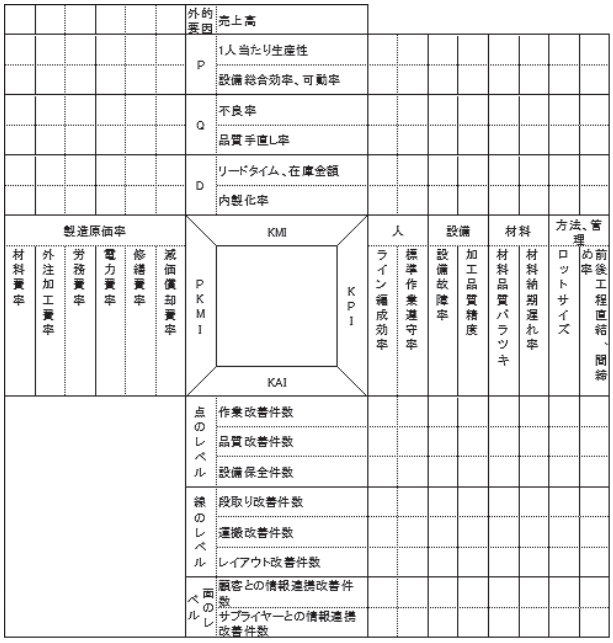
概要

トヨタ生産方式を採用する企業では、あらゆる改善活動が品質改善とリードタイム短縮に集約され、その成果は収益に結びつくと言われており、改善活動の効率が高い。しかし、仕組みが確立されていない事例においては、改善活動の成果が収益に対して効果的に作用しない場合があり、多くの中小企業が抱える課題となっている。

そこで、改善活動と収益がどのようなプロセスで結びついているのかを明らかにするために、マトリクスモデルと呼ばれる診断ツールを提案する。

マトリクスモデルは、収益に直接的な関わりを持った上位の評価指標から、改善活動の個々の取り組みと関わりを持った下位の評価指標までを取り上げ、改善活動と収益の結びつきを可視化するためのツールである。

マトリクスモデルを用いて改善活動を診断することは、中小企業が抱えている課題を可視化し、収益に結びつく改善活動を検討するのに有効な手段であると考えられる。



マトリクスモデルの例

セールスポイント

1．改善活動が企業の収益に与える効果を可視化し、工場のパトロールや成果発表会だけでは見つけることが困難な潜在的課題を探索。
2．改善活動に用いる既存の評価指標を利用することで、少ない工数で分析が可能。
3．収益の改善に貢献する戦略的な改善活動の方向付けを支援。

企業等での活用例、今後の展望等

1．中小企業A社において、小集団活動の成果発表会や管理監督者による現場巡回を補完するツールとして活用。潜在的な課題を可視化することに貢献。

参考資料

・ 安田正義(2022掲載予定)「マトリクスモデルを用いた改善活動の診断―中小企業を事例として―」『日本経営診断学会論集2022』